

三段峡 歴史

2017 年、三段峡は発見から 100 周年を迎えました。100 年よりも前、三段峡はほぼ未踏の峡谷で、1768 年に書かれた『松落葉集』という本でのみ言及されていました。この本には太田川の上流と現在の三段峡の一部について記されています。記述の中には竜ノ口や猿飛が含まれます。

1917 年、写真家の熊南峰 (1876 年 - 1943 年) がこの峡谷の探検を開始し、中国の風景をモチーフにした水墨画 (山水画) を想起させるその景観に魅了されました。この種の芸術作品は江戸時代 (1603 年 - 1868 年) 以降、知識階級の中でも独立心のある人々のあいだで人気を集めていました。『松落葉集』ではこの峡谷を中国の 2 つの自然ランドマーク、すなわち四川省のそびえ立つ三峨 (さんが、峨眉山のこと) および長江中流の長大な三峡 (さんきょう) になぞらえている点に基づき、熊は「三段峡」という名前を思い付きました。

この峡谷の美に魅せられた熊は、小学校教師の斎藤露翠など、地元住民らの助けを借りながら三段峡の宣伝を始めました。目標の一つは三段峡の美観を永久に保つことだったため、熊らのグループは峡谷を史蹟名勝天然記念物保存法による名勝に指定するための運動を起こしました。三段峡は 1925 年に名勝に指定されました。指定を受けてのち、熊の次なる目標は人々が三段峡の中を歩いて景色を楽しめるように遊歩道を設置することになりました。遊歩道を建設する際には峡谷を自然な状態に保つことが強く考慮されており、自然歩道が環境にできるだけ干渉しないように計画されました。これらの歩道は今日のハイカーたちが利用している歩道と同じものです。

1953 年、三段峡は新たに制定された文化財保護法の下で特別名勝に指定されました。そして 1969 年には三段峡を含む西中国山地地域が国定公園とされました。熊や地元住民らの努力によって実現したこれらの指定は、三段峡の自然美を保護しながら、その観光旅行先としての認知度を高めることに貢献しました。近年、三段峡は国内外のメディアで特集されており、観光客が自然の力だけでなく、静けさも堪能できる場所としてよく知られるようになりました。熊南峰が最初に定めた目標を深く心に刻んできた地元住民らの努力のおかげで、この峡谷は今日でも保護されています。